

聖ウルスラ学院英智報

ウルスラ 英智



鐘楼（アンジェラスの鐘）

vol.32 2011. 9. 1

特集

学校法人 聖ウルスラ学院

設立60周年を迎えて



学校法人 聖ウルスラ学院

設立60周年を迎えて

本学院の設立母体である聖ウルスラ修道会の創立者 聖アンジェラ・メリチの志と建学の理念によって培われてきた教育を受け継ぎ、21世紀の社会で力強く活躍できる人材の育成に努めるべく、近年教育改革が行なわれてきました。そしてこの教育改革は今、より質の高い教育環境づくりを目指して前進しています。



創立当初の高等学校



ごあいさつ

聖ウルスラ学院理事長

梶田 叡一

本学院は学校法人設立60周年を迎えることができました。この間、東日本大震災等の自然の猛威にさらされ、また社会・経済の荒波に揉まれながらも、保護者の皆様、卒業生、そして地域社会の方々や所轄官庁など多くのご理解とご協力に支えられ、教育実践を続けることができ、改めまして深く感謝申し上げます。私たち教職員も一丸となって、レベルの高い優れた教育を行うことを目指し日々努力を重ねて参りましたが、子ども達自身の有する可能性や成長力の大きさに希望を見出し、励まされてもきました。私たちが持つ願いは、一人ひとりの子どもがしっかりと人間として成長し、広範な学力を着実な形で身につける（学力保障）と同時に、充実した幸せな人生を歩んでいくための基礎づくりをする（成長保障）ことです。

本学院の建学の理念は、キリスト教的伝統にあります。ヘブライズム（ユダヤ教的伝統）とヘレニズム（古代ギリシャ的伝統）を土台に発展してきたキリスト教は、現代社会において、神の前の平等と隣人愛、そして無私の精神を強調します。またこれと同時に、知性と理性こそが人間の尊厳を基礎づける、という人間観を持っています。

また本学院は、一本杉キャンパスが仙台伊達家の御屋敷の跡に立地するという由緒を大切にしています。仙台の地に培われてきた豊かな伝統・文化を手掛かりとしつつ、我が国に古来積み重ねられてきた人間教育の精髓を、次の世代を担う子どもたちに着実に身につけさせていきたいと願っています。

私たちは、こうしたキリスト教と日本の精神文化の伝統に立ち、世の中のために働く力（＜我々の世界＞を生きる力）も、また、自分自身に固有な内面世界に依拠して生きる力（＜我の世界＞を生きる力）も、共に育つよう日々努めております。

このような本学院の教育のあり方について、どうかご理解いただき、温かいご協力ご支援を賜りますよう、心からお願いいたします。

本学院の本格的な教育改革がスタートして10年。確実に実を結び、成果が顕著に現れてきました。その一部をご紹介します。

2003

高校にコース制導入



この年特別志学コースが誕生、第一期生9名が入学しました。今では当たり前の春期課外も初めて実施しました。カリキュラムから、総合学習の中味、修学旅行の企画に至るまで全てを一新して、伝統あるウルスラ教育と一線を画し、ウルスラの「魂」をもとに、自らの志を実現するために勉強に特化した教育を始めました。以後2005年に男女共学化、2007年にこのコースを特別志学コースType1とType2の二つのコースに分けるなど、発展を遂げてきました。

高校で仙台藩作法始まる



日本の伝統文化から多くを学ぶことを重視するとともに、自国の伝統文化について誇りを持って語れる真の国際人を育てていくことを目指し、「仙台藩作法」が導入されました。「仙台藩作法」は仙台藩祖伊達政宗公以来、仙台伊達家に代々受け継がれてきた伝統的な作法です。尚志コースでは、仙台藩作法指南役の先生をお迎えして、週1時間3年間にわたって学んでいます。



小学校（6年）修学旅行はブリティッシュヒルズへ

小学校での英語学習の成果を発揮する場として、異文化体験学習プログラムが、福島県のブリティッシュヒルズで実施されました。

2004

「みやぎ私立学校教育特区」が内閣府より正式認定



本学院の提案を受けて宮城県が申請した教育特区が12月8日内閣府より正式認定を受け、本学院小・中学校がその実施主体として2005年度から新しい教育実践をスタートすることが決まりました。

幼稚園の子育て支援として長期休暇の預かり保育をスタート



2001年から始まった預かり保育を、この年より夏季などの長期休暇も実施へと拡大。また2000年から始まった未就園児親子クラスの内容を充実させるなど、幼児期の子育て支援を図りました。（写真は未就園児親子クラス）

2005

小・中学校開校、園名・校名変更披露式典開催



4月16日（土）宮城県知事・平賀現司教様をはじめ、約100名の県内外の教育関係者をお招きして在籍生・保護者の皆様とともに聖ウルスラ学院英智小・中学校開校 園名・校名変更披露式典が開催されました。

特区における取り組みについて伊藤校長が衆議院で意見陳述



日本全国数ある特区の中から本学院の取り組みが認められ、6月8日、国からの要請を受けて本学院の校長伊藤宣子が衆議院内閣委員会において本学院の教育について意見陳述を行い、また、4名の衆議院議員の方の質問に回答しました。

2005

「英智公開研究会」始まる



「みやぎ私立学校教育特区」研究開発学校として、9年制の聖ウルスラ学院英智小・中学校がこの年の4月に歩みを始め、研究開発の内容を公開する形で第1回公開研究会が11月17日（木）に開催されました。授業と研究協議会の他に、梶田毅一理事長の基調講演「未来を拓く教育を求めて」が、聴衆の深い共感を呼ぶとともに、シンポジウムでは、新しい学校の形を求めてシンポジストたち（常盤豊文科省初等中等教育局教育課程課長、若月秀夫品川区教育長など どちらも当時）による熱い討論が繰り広げられました。全国から教育の未来に関心を持つ多くの先生方が集まりました。その後この研究会は、「言語技術」の文科省からの研究開発学校指定とともにさらに発展し、今年は7回目の研究会が12月3日（土）に開催される予定です。

2006

高校特別志学コース第1期生、サクラ咲く



勉強合宿、放課後課外、また1クラスだけの長崎修学旅行…。多くのことが初めての1期生でしたが、広島大、宮城教育大をはじめ、一般受験で国立大学5校に合格し、それぞれが希望する道へ進みました。

2007

「言語技術教育」スタート



研究開発学校としての英智小・中学校には、様々な特色がありますが、その一つ、教科の統合（価値と規範、言語と国際性、人間、科学、数と量）において、「言語と国際性」分野に教科「国語」と「英語」をつなぐ教科として「言語技術」を置き、世界基準の言語教育を提唱する三森ゆりか氏の理論を取り入れることとしました。この研究は、2007年から新たに文部科学省の研究開発として認定され、3年間この研究に取り組みました。これは、子どもたちに、いわゆるPISA型「読解力」を育むことを目標としており、論理的な思考力を育てると同時に、子どもたちの苦手とする論理的な表現力を育てる試みでもありました。Fステージ1年からTステージ8年まで、英智の子どもたちは、「言語技術」を学び、ここで培った力を教科の学習の中に活かしています。

高校尚志コースでキャリアデザインスタート



高校尚志コースでは、週1時間の総合的な学習の時間を、1年次は「キャリア・デザイン」2、3年次は「キャリア・ゼミ」として展開しています。この時間は、「人生を主体的に生きる」というテーマのもと、様々な企画や講習会を通して自分の将来の人生設計について考え、取り組む時間です。

T9年生の体験旅行はオーストラリアへ



ホームステイと異文化体験を目的とした海外体験学習がスタートしました。

高校特別志学コースType2新設、高大連携授業やフランス語など個性的なカリキュラム



より高い学習活動と部活動・課外活動の両立を通して大学進学への進路実現を図ります。時間を有効に使う工夫の一つとして、朝課外を導入しました。また、語学教育の深化としてフランス語を必修としました。更に東北福祉大学との高大連携授業を通して、学習の意味を高いレベルで実感します。

2009

併設型中高一貫教育始動



小・中学校のTステージから高校卒業までの5年間で、自分の志に適した特色ある教育課程で学ぶことができる新制度。その効果は抜群で、子どもたちの実力の向上、驚異の大学進学実績には教職員が驚かされています。

history

1535 聖ウルスラ修道会の設立から日本での学校設立へ

聖アンジェラ・メリチ、イタリアにて本学院の母体となる世界最初的女子教育修道会、聖ウルスラ修道会を設立、ヨーロッパ各国に広まり隆盛を見る

1639 フランスの聖ウルスラ修道会修道女

メール・マリー・ド・レンカルナシオンほか数名がカナダのケベック州に渡り、北米最初的女子教育施設を創立



聖ウルスラ修道会設立

1936 カナダより聖ウルスラ修道会の修道女、メール・セント・マチルダ他3名が来日

1941 木ノ下にあづま幼稚園開園

1948 木ノ下に聖ウルスラ学院家庭学校創立

1949 木ノ下に小さき花幼稚園創立

1950 木ノ下に聖ウルスラ学院小学校創立



来日した3人の修道女



メール・マリー・ド・レンカルナシオン



1941年 あづま幼稚園



1950年 小学校創立



旧伊達邸

1951 学校法人聖ウルスラ学院として認可

1952 伊達家と邸宅譲渡についての契約成立

1956 仙台市一本杉に聖ウルスラ学院中学校を創立

1959 一本杉に聖ウルスラ学院高等学校創立

1961 小さき花幼稚園を聖ウルスラ学院幼稚園と改名

1965 小学校に給食室完成、完全給食開始

1967 学院歌制定

1989 学院新教育目標の実施

2003 高等学校にコース制を導入

一般コース（現在の尚志コース/女子のみ）・特別志学コース

2004 構造改革特別区域計画

「みやぎ私立学校教育特区」における研究開発学校として、独自の教育課程を実施する小中一貫校に認定

2005 聖ウルスラ学院英智小・中学校、

聖ウルスラ学院英智高等学校に校名変更

中学校(課程)、および高等学校

特別志学コースを男女共学とする

一本杉キャンパス新校舎落成

2007 文部科学省より小・中学校が、「言語技術」教育の研究開発学校として指定を受ける

高等学校特別志学コースType2を新設

特別志学コースType1、尚志コースの3コースとする

2009 併設型中学校、併設型高等学校となる



2004年から幼稚園で体育教室スタート



他校に先駆けて小学校でのパソコンによる英語学習導入



最初の特志コースシラバス



2005年から制服一新

2011 学校法人として設立60周年を迎える

2011 小・中学校新校舎着工



設立60周年記念事業の一つでもある小・中学校新校舎が2012年春完成します。

新校舎は一本杉のシンボルとなっている法領塚古墳をL字型に囲む形で配置される鉄筋4階建て造りです。21の普通教室、各種特別教室の他、先進的メディアセンター、体育館、多目的ホールなどが一体で建設され、本格的な小・中学校4・3・2制教育がスタートします。

このたびの「東日本大震災」に際し、
多くの方々から心暖まるご支援を頂きました。
深く感謝申し上げます。

～東日本大震災に際し、ご支援くださいました方々のご芳名～

[学校関係]

松徳学院 理事長
 上智学院 理事長
 学校法人 柴田学園 理事長
 学校法人 聖心女子学院 理事長
 学校法人 聖母女学院 理事長
 上智大学 学長
 聖心女子大学 学長
 東北女子大学 学長
 東北女子短期大学 学長
 学校法人日本航空学校 日本航空専門学校 学長
 東邦大学佐倉看護専門学校 校長
 長崎精道小学校児童・保護者・教職員一同、 校長
 新潟清心女子中学・高等学校 校長
 立教女学院小学校 校長
 白百合女子大学 神父
 愛知淑徳中・高等学校生徒会 会長
 聖ヨゼフ学園中学・高等学校 前生徒会長
 聖ヨゼフ学園中学・高等学校 前ヨゼフ祭実行委員長
 聖ウルスラ修道会日本管区 管区長
 [The Ursuline School of New Rochelle
 (Club social, New Rochelle, NY)]
 [Ursuline Academy (Dallas, TX)]
 [Ursuline High School Santa Rosa]
 [Ursuline Academy St. Louis Mo]
 [Ecole de Ste Ursule Paris France]
 韓国管区本部 サレジオ・シスターズ管区長 Suor CHOI Chong Hi Cecilia 様
 オーストラリア姉妹校 ツウンバ ウルスラ
 SAINT GERMAIN EN LAYE 代表 TOMOKO GOTO 様
 明星学園小学校昭和59年度第38回卒業生父母はるな会 代表 清瀬 幸子 様
 京都聖母学院小学校卒業生16名 代表 川田 豊 様
 徳島市立内町幼稚園PTA “絆”
 津田塾大学 津田塾からし種の会 江尻美穂子 様
 千葉県立幕張総合高校 女子バレーボール部保護者会会長 森永 成 様
 新潟県立新潟商業高等学校 女子バレーボール部
 新潟県立新潟高等学校 女子バレーボール部
 新潟県立村上高等学校 女子バレーボール部
 新潟県立新発田高等学校 女子バレーボール部
 新潟青陵高等学校 女子バレーボール部
 加茂暁星高等学校 女子バレーボール部
 北越高等学校 女子バレーボール部

[団 体]

日本カトリック学校連合会 理事長 河合 恒男 様
 公益財団法人AFS日本協会 理事長 小川郷太郎 様
 社団法人宮城県私立幼稚園連合会 理事長 村山 十五 様
 全日本私立幼稚園連合会 会長 香川 敬 様
 日本私立小学校連合会 会長 清水 良一 様
 宮城県私立中学高等学校連合会 会長 松良 千廣 様
 大阪ラテンアメリカの会 代表 梶田 雅子 様
 南山大学ユースホステル研究会 代表 青木 博 様
 カナダ日系文化館 折り鶴プロジェクト 責任者 ロレン ナガタ 様
 松山協同キリスト教会 牧師 政所 邦明 様

[企 業]

アートクリエイト
 株式会社 魚国総本社東北支店
 有限会社 菓心 モリヤ
 有限会社 喜代商事
 株式会社 ジャクエツ仙台店
 セコム株式会社 宮城統括支社
 世界文化社販売 株式会社
 有限会社 至光社
 株式会社 つばめ観光
 NTTテルウエル東北 株式会社
 有限会社 大黒屋製菓
 株式会社 チャイルド本社仙台営業所
 NPO法人 地球の楽好
 株式会社 藤崎デパート
 株式会社 花県
 プラス株式会社 スマートスクール
 富士ゼロックス宮城 株式会社
 パルセロナ ノマ企画
 (仏) 塗り絵プロジェクト
 株式会社 メディアバンク
 株式会社 マルウ海野商店
 株式会社 宮城県学校用品協会
 みやぎ生協こーぷ家庭教育センター
 株式会社 レバスト

[官公庁]

宮城県及び仙台市

[個 人]

卒業生 (昭和51年) 妹尾 (平野) 操 様
 生徒卒業生 匿名 様
 高等学校同窓会 岩岡 (後藤) 由美子 様
 高橋 (太田) 和美 様
 葛飾区議会議員 清水 忠 様
 PTA会長 平間 敏春 様
 個人 阿部 篤男 様
 菊池 安博 様
 鈴木 頼子 様
 Ernest Murakami 様

[学校関係者]

聖ウルスラ学院英智高等学校同窓会
 聖ウルスラ学院英智小・中学校同窓会
 聖ウルスラ学院小学校同窓会
 聖ウルスラ学院英智一本杉キャンパスPTA
 聖ウルスラ学院英智木ノ下キャンパスPTA
 聖ウルスラ学院英智幼稚園母の会
 聖ウルスラ学院一杉会の皆様
 聖ウルスラ学院英智高等学校生徒会
 本学院理事会理事の皆様
 多くの本学院教職員の皆様

◎全国の学校からも手紙や寄せ書き、菓子などをいただきました



◎フランスから届いたお手紙



◎トルコから届いた鶴



◎ペルーから届いた手紙



震災復興支援 御礼座談会 より



【出席者】(50 音順)

伊藤 宣子 氏(本学院小中高等学校校長)
金澤 孝夫 氏(本学院小中学校副校長)
今野 麻里 氏(本学院高等学校同窓会長)
佐取 美智子 氏(本学院幼稚園園長)
鈴鴨 清美 氏(本学院教育顧問)
高橋 直見 氏(本学院法人事務局長)
平間 敏春 氏(本学院小中高等学校一本杉キャンパス父母教師会会長)
藤田 由加 氏(本学院幼稚園母の会会長)
渡邊 裕介 氏(本学院小中学校木ノ下キャンパス父母教師会会長)
進行：杉山 禎彦 氏(本学院理事長補佐・中高教頭)



教室



図書室



外壁



体育館

杉山：本日も地震がありました。3月11日、4月7日の2回の地震において、幸い本校生に直接の被害はなかったのですが、家族、親族にはありました。同窓生はどうでしょうか。

今野：同窓会では、名簿作りをしている最中です。亡くなられた方のお知らせも届いていますが、未だ確かな人数等は把握しきれていません。また、ラシャベル神父さまの追悼ミサを11月12日に行う予定です。

杉山：若い卒業生が亡くなっています。九死に一生の体験をした卒業生もいます。

平間：被害も広範囲であり、直に目にした津波の被害は極めて深刻でした。お子さんだけが残された場合、その方の消息を知することは難しいです。震災後、避難されて(移動して)いるので、(知人と)会えばどこに住んでいるかの情報交換になりますね。コミュニティが崩壊したり、住めない地域もあったりするので、人づてに情報交換して、少しずつ消息が分かってきたところでです。

今野：本人が申告しない限り住所がわからないことが多いです。

伊藤：震災後、幼稚園の終業式がありました。参列して、とても強く感動しました。子ども達は直観的に物事を感じ取ります。そのあたりを幼稚園の親御さんたちはどのように受けとめたのでしょうか。

藤田：自宅に避難してきた親戚がいました。子供は、人がいっぱいいることに安心するようです。復旧してから働きに行くようになって人が減ると、地震があった時、不安になるようです。人がいるだけで、心の支えがあり、落ち着くようです。毎日幼稚園があることが当たり前前の生活をしていく中で、(子供は)日常の生活に戻ろうとしていたんだなと思いました。

渡邊：3月11日は中学校の卒業式の前日でした。情報が入っていくにつれ、未曾有の大変な事態であることがわかってきました。学校が始まってお互いの安否がわかったら、子ども達が安定したようでした。

佐取：3月22日に自由登園の形で、子ども達を集めました。元気に過ごしていました。みんなと一緒に居られることで安心していただけです。

金澤：寂しさや恐ろしさの混沌とした感情の中で、(家庭を第一として)第二の居場所が保障されていることが大事です。子ども達は居場所があったことを実感して落ち着き、再会した友達との交流の中に笑顔がよく見られました。

伊藤：子ども達は年齢によって表現の仕方が変わってきます。みんなと居られることの喜びを、それぞれの発達段階に応じた表し方で、全身で伝え合っていました。今まで体験したことのない

子ども達の温かさが伝わってきました。「会えてよかった」という声。恐怖の瞬間を乗り越えた者同士のつながり。祈るというかたちの愛、そして絆。震災で失った命や生活の基盤は確かに甚大ですが、同じくらい大きな、大切なものを神様が示してくれていると信じます。日本全国からの、世界中からの温かなご支援に感謝、励ましに感謝。深く感謝しつつ、多くの人々が・子ども達が「自分にできること」＝「社会貢献」を考え実践すること自体、共に生きるという、平時ではなかなかその思いに至らない思いを共有できているのではないかと感じています。

鈴鴨：震災の惨状を見るにつけ、これは歴史の中で、戦争以来の大惨事と思いました。しかし戦争は人為ですが、地震は自然の力です。戦争と違うのは、世界の人が味方してくれたこと。多くの方が救援に駆けつけ、たくさんの食料や生活必需品を送ってくれ、困難を乗り越えて運んでくれ、温かく見守ってくれ、心を寄せてくれました。一方で、ラジオを聞いていて、海に向かって祈りつづけているという人の話に心を痛めました。人間は再び、青い海を称える時が来るのだろうか、という複雑な思いになりました。

高橋：避けられない運命、眼に見えないもので生かされているということを感じました。法人事務局の立場から報告すると、多くの方々からのご支援を現時点で約1700万円いただいています。奨学金という形で、まず被災した在校生に届け、来年以降も生徒の支援や建物被害の修復に使わせていただきたいと考えています。この支援は神様のお力添えだと思います。

伊藤：最初のご支援が同窓会からでした。ほんとうにありがたかったです。それから、徐々にいろいろなところからご支援が届きました。

今野：どんなに大変な状況かわかりました。緊急避難所になったと聞いて、学校が壊滅したのではないと安心しました。3月11日は、中学校の同窓会の入会式で、そういう時期だったからこそ、早く支援したかったのです。関係者に連絡しなかったけれど、電話も通じず連絡できなかった時期でした。後日報告することにして、いち早く支援できてよかったと思いました。

鈴鴨：学校とは「人」をつくるものであり、その「人」がやがて学校を支えていく。これが教育のしくみであります。それが最も典型的に表れたのが同窓会。本学院は素晴らしい同窓会をもっているなと感じました。

佐取：今まで全く交流の無かった東京の幼稚園などからもご支援をいただき、子ども達が喜んでいました。「ぬり絵」をもらったとき、応えなくてはいけなかった。心配してもらっている、助けられていると感じていたようでした。

平間：(高校生の)息子が買い物に並んでくれて助かりました。買い物が終わったとき、お年寄りが重い荷物を持っていたので、ご自宅まで運んであげたら大変喜ばれたようです。こういう話を聞いて、自分の息子ながらうれしく思いました。ウルスラの子は、そういうところあるのではないのでしょうか。愛情に関して、素直に表現できる(ような)。

今野：そういうときに素直に表現できるのが大事です。

鈴鴨：普段は出てこない行動様式、こういうときに本当の姿が出ます、それが教育の力、家庭の力であります。人は生まれながらにそういうことを身につける力を持っていますが、自然にあらわされるようになったことが教育といえます。

平間：報道されないことが多いけれど無人の被災地で窃盗が多く、無くなるから金庫を掘り出してくれと頼まれたこともありました。津波の被害を受けた地域で常に物を探している人がいますが、はたして被災者なのかそうでないのか分からないのです。教育によって正しく生きる力を育むことの重要性は昔より高まっているように感じます。

今野：ライフラインが止まったり物が買えなかった時期、不便な生活の中でも工夫次第でこんなこともできると発見する日々でもありました。子ども達にとっても重要な経験だったのではないのでしょうか。

伊藤：いま子ども達は元気にさわやかに学校生活を送っています。今年のボランティア参加者は非常に多いです。「疲れたけど、やったよー」という声も聞きました。応援してもらっている、仙台にきてもらっているという喜びが、自分たちにもできることがある、やりたい、やろう、と行動になったのだと思います。つながり合っていることを実感しているようです。そして、これからが教育の正念場だと思います。

杉山：風化させたくないもの、それをこれから学校教育をそれぞれの場で行っていくということですね。ご支援と温かいまなざしをお願いしたいと思います。本日は有難うございました。

平成23年8月19日
於 一本杉キャンパス中央館1階会議室

幼稚園は 昭和16年の開園から 70周年を迎えました!

1941年、仙台において聖ウルスラ学院最初の教育の場である『あづま幼稚園』が開園してから、今年で創立70周年を迎えました。“一人一人を大切にする”というキリスト教の教えのもとに、これまでの70年間でたくさん子どもたちが友だちと元気いっぱい遊び、お互いを思いやりながら園生活を送ってきました。43人の園児から始まった幼稚園からは、昨年度までに約9,000人の園児が巣立っています。そして嬉しいことに、親子3代にわたって幼稚園の門をくぐる方も増えてきました。時は流れても昔と変わらない幼稚園の教育を懐かしみ、幼い頃の自分と重ね合わせている方も多いのではないのでしょうか。

子どもたちを取り巻く環境は日々変化していますが、これからも感謝と愛の心を持って一人一人の可能性を見出し、子どもたちの瞳の輝きを大切に育んでいきたいと思います。子どもたちにとっていつまでも懐かしい場でいられるように…。



第1回卒園式

昭和37年
～40年頃



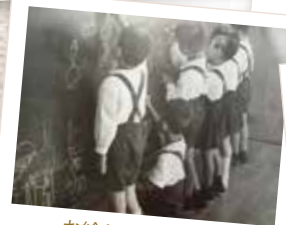
今日から 幼稚園!



楽しい 外遊び



うがい、手洗い



お絵かき楽しいね



砂遊びをしているところ

昭和39年
～40年代



一本杉校舎の幼児用プールで
水遊びを楽しんでいました



鼓笛隊かっこいいね

昭和48年
～50年代



Ga&B 完成



よーい、どん!



昭和33年から始まった
リトミック教育
今の子どもたちも大好きです

昭和
60年代～



制服
かっこいいでしょ!



こいのぼり できたぞ～

笑顔がいっぱい 家族参観日

《年少》
ふたば組



「この紐も使おうよ」

《年中》
つぼみ組



「肩車は高いな～楽しいな～」

《年長》
はな組

「うん、
頑張るよ!」

「しっかり釘を
打つんだよ」

おひなさまの台
完成!!



幼稚園では毎年、6月の第3土曜日に『家族参観日』が行われます。この日は大好きなお父さんお母さんと一緒に過ごせるので、子どもたちは朝から大喜びです。

今年の参観日で、年少ふたば組は、親子で“空き箱製作”をしました。様々な空き箱があつという間に大きいロボットや、かわいいバックに大変身!完成した作品はどれもアイデアいっぱい、子どもたちにとって素敵な宝物ができました。

年中つぼみ組は体育教室の先生とともに“親子体操”をしました。フープ送り競争では、お父さんお母さんだけでなく、一緒に参加した弟、妹、お兄ちゃん、お姉ちゃん、みんなで1つの大きな輪になって、フープ送りをしました。競争ではありましたが、ほのぼのとした雰囲気が感じられました。

年長はな組は親子で“お雛様の台”を作りました。色とりどりの、ふたつとないお雛様の台が出来上がりました。3学期に紙粘土で作る、お雛様と一緒に持ち帰る日が楽しみです。それぞれの家庭でお雛様が飾られることでしょう。

今年も園舎内が、たくさんの笑い声であふれた『家族参観日』でした。

東日本大震災後に多くの方から、励ましや心のこもったプレゼントをいただきました。皆様のあたたかいお心に感謝いたします。ありがとうございました。

徳島市立内町幼稚園PTA
“絆”「千羽鶴・応援色紙“絆”」



「みんなの気持ち、届いたよ」

韓国マリア幼稚園
「はとのメッセージカード」



(仏)塗り絵プロジェクト
パリ市 エブレ幼稚園「塗り絵本」



「きれいになってきたよ」



「じょうずに
ぬれたでしょ!」

第70回 全国教育美術展

小さなアトリエ
こども美術館

平成22年度

◆地区学校賞

聖ウルスラ学院英智幼稚園
「教育美術奨励賞」を受賞



◆地区審査/特選

◆全国審査/特選

「がんばれ リレー」

佐藤 日向 (5才)



◆地区審査/入選

◆全国審査/特選

「にじいろの木」

下雲 かのん (4才)



◆地区審査/入選

「かぞく」 佐藤 久音 (5才)



◆地区審査/入選

「いもほり」 熊谷 涼鈴 (5才)

第29回 みやぎ児童画展
★世界児童画展同時出展



◆みやぎ児童画展/特選

◆世界児童画展/特選

「おとうさん」

伊藤 煌起 (3才)



◆みやぎ児童画展/特選

◆世界児童画展/特選

「ことしのたいよう」 照木 聖夜 (5才)



◆みやぎ児童画展/特選

◆世界児童画展/入選

「もえるたいよう」 橋 南海 (4才)



◆みやぎ児童画展/特選

◆世界児童画展/入選

「おとうさん」 葛岡 晏 (4才)



◆みやぎ児童画展/特選

◆世界児童画展/入選

「おとうさん」 森谷 心羽 (4才)

●「みやぎ児童画展」において、特別賞・特選の受賞作品は「世界児童画展」に出品されます。

Fステージ・Sステージの宿泊学習

Fステージ・Sステージでは、子どもたちの生活力の集大成として宿泊学習に行っています。全学年が宿泊学習を行っていますが、今回は1・2年生と、6年生、7年生の内容を紹介します。



6年生の「アメリカンサマーキャンプ」にて

Fステージ 1・2年生

1・2年生は毎年合同で、泉ヶ岳に行っています。豊かな自然の中で、ハイキングや沢遊び、自然散策を行い、たくさんの発見をすることができました。また、少年自然の家では、2年生がリーダーとなり、布団しきや入浴、食事の準備を行いました。進んで仕事をし、協力する心を学びました。



泉ヶ岳のハイキング



力をあわせてシーツをたたみます



どんな生き物がいるかな？
みんな真剣です



水神に到着！



自然散策でお花をみつけたよ



沢遊びを満喫、
山の水は冷たくてきもちがいいよ！

Sステージ 6年生

英語によるコミュニケーション力育成の一環として、14人のアメリカ人学生リーダーと6年生は、2泊3日の青森でのアメリカンサマーキャンプで交流を深めました。6年間学習してきた英語力を最大限に活用し、英語で日本文化のプレゼンテーションを行ったり、青森を英語でガイドしたり、アメリカの文化や生活を疑似体験するプログラムに参加したりしました。初めは、緊張の面持ちだった子どもたちも、次第に、自然な形で英語でのコミュニケーションがとれるようになりました。



英語ガイドさんを介してお互いに真剣にコミュニケーション。



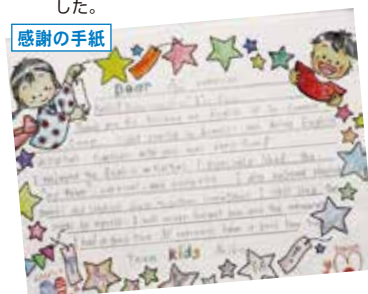
青森の郷土料理。献立内容や、箸の使い方を教えるなどとても楽しく和やかなひと時を過ごしました。



英語での日本文化プレゼンテーションとパンフレットを準備してきました。茶道や折り紙、日本の妖怪や漫画など、一生懸命に英語で楽しませていました。



ねぶたの家「わ・ラッセ」では日本語のガイドを英語で通訳したり、息を合わせて大太鼓を一緒にたたきました。



Sステージ 7年生

7年生は遠刈田温泉に1泊2日で学習合宿に行きました。自主学習を中心とし、これから中高で学習していくための習慣を身につけるため、一人一人が集中して取り組みます。途中で投げ出さず、最後まで取り組む心も学びます。

ここで学習習慣や生活習慣を身につけ、1月にはSステージのリーダーとして4年生とスキー宿泊学習に行きます。次のステージに進級するための助け合いの心を学びます。



徹底した学習週間を身につけます



時には気分転換…



たくさん勉強したあとの
食事はおいしい！



冬の雪山での自然体験



寒さの中でも集中して取り組みます

Fステージ・Sステージ キャンパス特集！！



木ノ下キャンパスは、
Fステージ、Sステージを通して7年間使用する校舎です。
来年度以降は第二校舎として、
合宿や特別活動、クラブ活動などで使われ、
教育内容によって多様化した使い方をしていきます。
たくさんの活動をしてきた木ノ下キャンパス校舎。
子どもたちのお気に入りの場所を聞いてみました

【木ノ下キャンパス】

明るさにつつまれていて、先生方もいつも
やさしく見守ってくれているところが好きです。

7年B組 高橋 歩海

懐かしの写真館〈1〉



今の校舎ができた当時の玄関ホールです。

懐かしの写真館〈2〉



以前から図書室は
みんなが好きな場所だったんですね。

人気のある場所のひとつ。
今日は、どんな本を読もうかな…？



第3位

人気スポット

図書館

学習の本や、ものがたりの本が
いろいろあるので好きです。

3年A組 佐々木 乃愛

印刷室	控室
図書室	職員室
折りの部屋	
4A	4B

お祈りの部屋

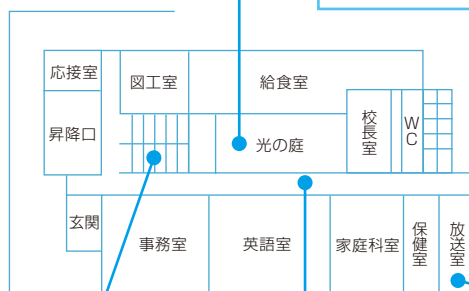
静かなので、自分の心の中で
しっかりおいのりができます。

4年A組 小玉 真規子



神様とお話をする場所です。
この部屋に来ると、
心が落ち着きます。

【1階】



光の庭

名前のとおり、光がたくさん入って明るいし、
マリアさまのそうがいつも見守って
くれているところがすきです。

3年B組 渡部 友賀



5月のマリア月にはこの場所で
マリアさまにお祈りを捧げます。

中央階段

英語のカードがはってあって
たのしいです。

2年A組 井草 陽菜々



階段もみんなにとっては
好きな場所のひとつです。

廊下

6年間過ごしてきた
なじみのある所だから、
思い出がギュッとつまっています。

6年B組 上井 菜都子



毎日たくさんの人が
行き交う場所です。

放送室

機械をそうさして、
全校に自分の声や
音楽を放送するのが
楽しいです。

5年A組 松木 優佳



放送委員が中心となって、
お知らせなどを発信しています。

懐かしの写真館〈4〉



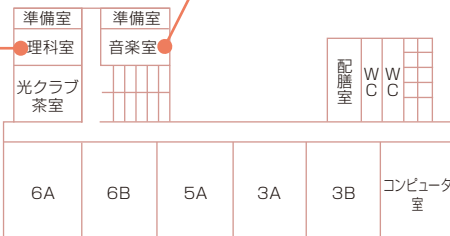
今も昔も、理科室でのクラブ活動は楽しいものです。

理科室

科学実験が好きだから理科室が大好きです。

4年B組 佐藤 未羽

【3階】



音楽室

たくさんの楽器があって、いろいろな音を奏でられるところが好きです。

6年B組 早坂 真音



休み時間になると、みんなピアノのまわりにあつまります。

【2階】



1B 2A 2B

教室

みんなといっしょにいられるところが好きです。

4年B組 志田 雅法



教室も人気の場所です。やっぱり、自分の教室が一番好きなようです。

【校庭・講堂】



人気スポット

校庭

校庭のすべりだいのところは、春にはさくらの花がさいていてきれいです。

2年B組 木村 綺那



校庭は遊び場としての人気はもちろん、体育の授業でも、もりあがるところです。

懐かしの写真館〈5〉



旧校舎の頃の運動会の様子



人気スポット

講堂

広いので、かくれんぼでかくれるところがたくさんあります。たかいところが好きなので、よく遊びます。

1年A組 戸島 ひなた



講堂は人気ナンバーワンの遊び場です。授業では、7年生も武道で使います。

懐かしの写真館〈3〉



いつもにぎわっている教室

懐かしの写真館〈6〉



昭和42年の運動会での鼓楽隊の行進。昔からの伝統だったんですね。

言語技術の授業がパワーアップ

本年度は、つくば言語技術教育研究所所長の三森ゆりか先生を招いての言語技術特別授業を毎月行っています。

言語技術とは、本校1年生から8年生まで週に1回(年間35回)ずつ実施している教科で、児童・生徒の論理的思考力を育成することを目的としています。

特別授業は毎月8クラス、毎回2日間にわたって行われ、すべて本学院の担当教員と、三森先生のTT(ティーム・ティーチング)の形で行われます。児童の論理的思考力を磨くために日々研究し、放課後は、授業検討会及び、教科研究会が開かれます。



放課後に行われる教科研究会



三森先生による6年生の授業



言語技術で培った技術は英語にも生かされます(4年/英語)



集めた情報を効果的なプレゼンテーションにまとめます(4年/社会)



算数の説明も論理的にわかりやすく(3年/算数)

ファースト・ステージ

～絵本とともに育つ子どもたち～

ウルスラ英智の子どもたちの周りには、常に絵本があります。1、2年生では、ほとんど毎日、3年生以上でも週に数冊は、必ず絵本の読み聞かせやアニメーションを行っています。本校の読み聞かせでは、子どもがより深く物語の中に入り込み、分析的な視点で物語の主題を捉えていくことができるよう、教師が質疑応答を行いながら、児童を導いていきます。たくさんの良質の物語をクラスで共有することで、子どもたちは、瞬時に物語の要点をつかみ、良い絵本を選ぶ力を身につけていきます。様々な登場人物の心情を子どもたちなりに分析していくことで、相手を思いやることのできる共感力を身につけていくのです。



読み聞かせに集中する1年生



国語の話し合い活動にも様々な成果が見られる2年生

セカンド・ステージ

～物語を分析的に読み解いていく授業～

例/ある日の6年生の授業

『みどりのゆび』(215ページ)という児童書を4時間かけて分析的に読み解いていきました。子どもたちは、宿題として「みどりのゆび」を事前に家で読み深めており、その上で、各時間、独自のカリキュラムに沿って、物語を論理的思考力を働かせて読み進めていきます。

授業を覗いてみると、そこは、もう、大学の文学の授業のよう。文庫本を片手に、主題に沿って活発に意見が交わされていました。さらに、セカンドステージの言語技術の特徴として、毎時間原稿用紙一枚程度で、その日の課題にに合わせて分析文を仕上げます。ある児童が授業時間内に15分程度で仕上げた文を以下にご紹介します。



みどりのゆび

(岩波少年文庫)

モーリス ドリュオン(著)
ジャクリーヌ・デュエム(イラスト)
Maurice Druon(原著)
安東 次男(翻訳)



みどりのゆびを精読中



集中して分析文を書く6年生

物語の主題を読みとる作文

みどりのゆびの主題は、平安である。理由は3つある。一つ目は、チトがみどりのゆびを使って戦争を止めたことにより、多くの人に平安が生まれたからである。2つ目は、戦争を止めるまでの過程で、チトは様々な場所に行った。そこでもかわいそうだった人や動物に、みどりのゆびを使って平安を作ってきたからである。また、3つ目の理由として、時代背景がある。作者の故郷フランス、パリは、第二次世界大戦によりドイツに攻撃を受け、作者はイギリスに移住する。その時の作者は、自分の故郷が戦場になった姿を見ている。そんな故郷のすがたを見て、作者も平安をのぞんだと考えられる。以上の理由により、みどりのゆびの主題は平安だといえる。

6年B組 齋藤 広人

三森先生による
7年生の言語技術の授業は
より発展した
深い内容に…



自分の可能性を信じ挑戦するType1生

この春のType1の卒業生は人数の少ない中で切磋琢磨する環境にありました。それだけに、一人一人の存在が大きく、多くの時間を過ごす中で、次第に互いの関係も密になり、精神的に支えあい、3年間成長を共にしてきました。その結果、聖ウルスラ学院英智初級の東京大学文科I類や東京工業大学へ進学を果たすことができた生徒が生まれました。周囲からの期待の中で、身近にそれらの大学へ挑戦した先輩がおらず、志望校合格を糧・励みに、また、プレッシャーに感じ不安を抱えながら、自分の可能性を信じて挑戦しました。決して平坦な3年間ではなかった6期生たちでしたが、学びを深めるために自分で切り拓いた道を歩みはじめていきました。

今年、特別志学コースができて9年目になり、生徒数も非常に増え、中学生を含めて180名を超えました。同じ体験を共にしてきた先輩と後輩の絆は強く、高い壁を乗り越えた自己の体験をもとにアドバイスしてくれた卒業生を追い、日々自分たちの学習や諸活動に勤しんでいます。

6期生15人 合格実績

●国公立大学

大学名	学部	人数
東京大学	文科I類	1
東京工業大学	工学部第3類	1
千葉大学	教育学部	1
電気通信大学	情報理工学部	1
山形大学	人文学部	1
	理学部	2
	工学部	1

●私立大学

大学名	学部	人数
早稲田大学	政治経済学部	1
	法学部	1
	先進理工学部	1
慶應義塾大学	理工学部	1
中央大学	法学部	2
	経済学部	1
	理工学部	2
東京理科大学	理学部	1
	理工学部	1
明治大学	理工学部	3
青山学院大学	理工学部	1
國學院大学	法学部	2
日本大学	文理学部	1
芝浦工業大学	工学部	1
	システム理工学部	4

●大学・短期大学

学校名	専攻	人数
防衛大学校	人文・社会科学専攻	1
	理工学専攻	4
青山学院女子短期大学		1

大学名	学部	人数
東京農業大学	応用生物科学部	2
東京電機大学	工学部	1
中央学院大学	法学部	1
東北学院大学	法学部	4
	経済学部	1
	教養学部	1
	文学部	3
東北福祉大学	総合マネジメント学部	4
	総合福祉学部	1
宮城学院女子大学	学芸学部	2
尚絅学院大学	総合人間科学部	1
石巻専修大学	経営学部	1

聖ウルスラ英智初の 東大合格！



東京大学 文科I類 合格
成澤 柊子さん（聖ウルスラ学院英智中出身）

●合格大学 ・早稲田大学 政治経済学部
・早稲田大学 法学部
・中央大学 法学部 他

私は15年間ウルスラ英智にいました。近くにある家からずっと木ノ下キャンパス、一本杉キャンパスに通い、この春初めて外の世界に出ました。電車も使ってなんと40分かけて東大の駒場キャンパスに通っています。小さかったころのことはよく覚えていないのですが、とにかく元気で体を動かすのが好きなので一方で静かに読書するのも好きな小学生だったような気がします。それから社会の授業で「小村寿太郎役」をやることになって、彼のことを調べまくったことが、もしかしたら私の勉強のルーツかもしれません。

中学生になり、クラスメイトにバドミントンで全国優勝を果たしている子たちがいて、いつもすごいなあと思っていました。他にも書道や英語劇で活躍している友人たちもいて、真剣に取り組む姿に刺激を受けていました。そんな中で、自分は何を頑張っていくのかと中3の時それなりに真面目に考えました。そして、自分が勉強でどこまで頑張れるかやってみようと思いました。先生たちの授業が面白く、何かを学ぶことは好きでした。

高校Type1への入学当初は自分が東大に行くことになるとは思っていません

学校法人聖ウルスラ学院が仙台に設立されて60年、初めて東京大学合格者が出ました。Type1の成澤柊子さんです。聖ウルスラ幼稚園から15年間ずっとウルスラ英智で学校生活を送り、この春、東京大学文科I類に現役合格の快挙を成し遂げました。Type1の後輩たちも、あとに続こうと張り切っています。

んでした。夏に東京方面の大学見学研修会に出かけて、東大法学部の方の、高校時代に数学の問題を1万題解いたという話と形容できないすごいオーラに圧倒されて帰ってきて、そのころから自分が変わった気がします。9月ごろから学校が面白くなってきました。遅くまで学校に残って友人と勉強したり、雑談をしていて怒られたり（笑）。勉強にちゃんと取り組むようになるとType1はやっぱり楽しい。勉強の内容自体はどの教科もとても面白かったです。特に現代文はいろんな文章に出会って好きでした。

勉強で一番つまらなかつたのは高2の前半です。模試で思うような点数がとれず、ゲームや本に逃げこんだ時もあります。秋からは勉強を生活の中心にして頑張ったせいか、冬から成績が上がりました。（某鎌田先生曰く「化けた・・・」。）高3では一気にやる事が増えてひたすら忙しかったです。模試も多くて、いったい自分が何をしていたのか覚えてないくらい。不安も抱えていましたが、先生方に支えられてなんとか頑張りました。そして周りの友人たちの存在。楽しいときも苦しいときも共に過ごすことのできる、いい感じの仲間たちがいました。おそらく3年間、家族とよりも長い時間を過ごしたと思います。

今東京の地について毎日勉強し、友達と遊んで楽しいこともいっぱいあります。大震災前の高校時代がはるか遠くに感じられる一方、とてもなつかしいです。15年間たくさんの友達や先生方に囲まれながら勉強し、生活した英智のある仙

Watch◆特志Type1の魅力に迫る！

T8・9年の校外学習——総合学習「地球市民」

初夏6月のさわやかな1日、8・9年生が「角田宇宙センター」（JAXAジャクサ＝宇宙航空研究開発機構）、「角田スペースタワー」で校外学習に取り組みました。事前に調べ学習や発表会を行い、当日は研究者の方々の説明を熱心に聞き取ったり、落下してきたエンジンを見たりして充実した学習となりました。昼食はバーベキューを楽しみました。



参加後の 生徒の声

未来型ロケットのスペースプレーンに乗って気軽に宇宙に行ける日が来ると思うと、ワクワクする。2段目のロケットエンジン試験は、角田で行っていないようだ。自分の住む宮城県にこんなに面白い施設があるとは知らなかった。

芸術鑑賞会 “至高の話芸”

今年の「Type1芸術鑑賞会」は、落語家の柳家三三（やなぎやさんざ）師匠をお迎えし、5学年で話芸を味わいました。三三師匠が出演されたTV番組「情熱大陸」を観て芸道の厳しさや大変さを学んだあと、いよいよご本人が登場。お決まりの身のこなしの説明やソバをすすする芸（しぐさ）に感心したあと、「味噌豆」「ねずみ」「転失気（てんしき）」に笑い転げて、あっという間の2時間でした。



参加後の 生徒の声

予想を上回る展開に、笑いに笑った。「話し手のお話と聞き手の想像力があって、ひとつの作品になる」という落語の魅力を十分に味わうことができた。

部活動両立型特志Type2 ～5期生を迎えて～

本コースは、学業と部活動・校外活動の両立をサポートし豊かな人間教育を志向したコースです。今年は、震災の影響で入学式も遅れて行われましたが、104名の入学生（5期生）を迎えることができました。男女比も4期生・5期生は1：2となり、学校生活も部活動もより活発になっています。また、この春は、48名の2期生もそれぞれの夢をかなえ学び舎を巣立っていきました（進学先参照）。

特志Type2では充実した生活を送るための特色教育として、設立当初より「朝課外」「東北福祉大学との高大連携授業」「フランス語」を行っています。これらの特色教育から自発的な行動が生まれ、今年は生徒たちが仲間を募り、先生の空き時間に演習授業をお願いするという「自主勉強会」が夏休みに行われていました。学校生活を自分たちなりにによりよく作り上げようとするこの行動力にはとても感心させられました。



第5期生

◆ 2期生の主な進学先

◎私立大学
上智大学、法政大学、獨協大学、東京農業大学、北里大学、東北学院大学、東北福祉大学、東北薬科大学等

◎国公立大学
東北大学、北海道大学、山形大学、岩手大学、福島大学、宮城大学



修学旅行（フランス）



大学見学（立教大学）



高大連携授業（東北福祉大学）



球技大会



夢をかなえた2期生

東北大学 工学部 合格
高橋 智美さん（聖ウルスラ学院英智中出身）

私の特志Type2での高校生活は本当に充実したものでした。私は高校1年生の頃からずっと東北大学を志望していました。茶道部に所属しながら一般のマーチングバンドに所属していたため休日や放課後にあまり勉強時間が取れない私にとって、部活と勉強の両立ができる環境であるType2はとても合っていました。マーチングや部活が忙しく思うように勉強時間が取れず、何度も悩み、立ち止まることもありましたが、そんなとき支えてくれたのはType2の先生方でした。高校3年間、私の東北大学合格という目標を全力で応援し、サポートしてくれました。3年間勉強、部活、マーチング、すべてを頑張り、やり切ることができたのはType2のおかげだと思います。ウルスラ英智に入学し、Type2というコースに出会えて本当に良かったです。

Watch◆特志Type2の魅力に迫る！

課外活動として、高校生新聞の記者として活動している杉原さん。東日本大震災で被災した自宅のある塩釜を取材したレポートが記事として掲載されました。

私にとっての学び

2年2組 杉原 ああや 愛純

私にとっての「学ぶ」には2つの意味があります。

1つ目の意味とは勉強することです。私は大学受験とその先を視野に入れ、積極的な学習をするように心掛けています。

2つ目の意味とは社会の一員としての自分を磨くことです。

その一貫として、部活動は華道部、学校外では高校生新聞の記者をしています。それらで多くの方々と関わり、私の考え方を発信できます。

私はType2の整った環境の中で、どちらにも取り組むことができています。そして今自分らしい学びを設計しながら、更に多くを学ぶために努力したいと思っています。



【Type2 9年生】ケアンズ体験旅行 事前学習

Tステージ9年生は10月23日より6日間、オーストラリアのケアンズへ体験旅行に出かけます。週一度ある「地球市民」の時間ではオーストラリアの文化や歴史、習慣などを調べて発表したり、日本文化を英語で紹介できるよう訓練しています。また仙台国際センターを訪問して、国際交流協会の方々からホームステイ体験談やオーグリーイングリッシュ（オーストラリア英語）の説明を聞くなど、事前準備を着々と進めています。



国際センター訪問時の生徒の感想より

ホームステイでは英語がたとえ分からなくても、とにかく話したり、絵を描いたり、ジェスチャーをするなどして、コミュニケーションをとることが大切だとわかりました。また、イエス・ノーをはっきり伝えることの大切さもわかりました。実際にホームステイをする時、今日学んだことを生かしたいと思います。様々なことを教えていただいた国際センターの皆さんに感謝したいです。

（9年1組 安垣 佳麗）

「志をたか尚くする」

伝統の女子コースである「尚志コース」の生徒たちは、「志を尚く（たかく）」掲げて、活発に、意欲的に、日々の生活を送っています。尚志コースでは、「英語」「作法」「自主活動」の三分野をコースの三本柱として位置付け、特に力を入れて取り組んでいます。この三本柱も最近ではすっかり定着し、ひとりひとりが三本柱を強く意識しながら、それぞれの分野で目標に向かって頑張っています。

しかし、今年は東日本大震災によって生徒たちの学校生活に大きな影響がありました。中でも三本柱のひとつ「自主活動」の中心である部活動は、かなり制約を受けることになりました。特に体育館が震災から4ヶ月間もの間使用できなくなったことは、運動部の活動を大きく変えました。そんな中でも、ひたむきに活動に向かう生徒たちは、この状況を通して様々なことを経験し、学び、成長していました。どの部も高総体を控えて少しでも練習時間を確保したい中、狭い講堂を時間と場所を細かく区切って、お互い譲り合い、支え合って練習を続けました。日頃から交流のある県外のライバル校の仲間たちから、次々と支援の声が寄せられました。被災者支援のためのボランティア活動に参加した部もありました。家族や家を失い、本当に辛い体験をした生

徒もいましたが、普段の学校生活では決して考えたり経験したりすることのないような多くのことと真摯に向き合う中で、生徒たちは見事な成長を遂げています。

ボランティア活動の様子



バレーボール部の震災支援への御礼レター

Watch◆尚志の魅力に迫る!

世界を通じて

3年3組 齋藤 あき 歩樹

私は高校1年生の冬に、カナダへの留学を決め、高校2年生の夏、期待と不安を抱きながらカナダへ出発しました。そしてこの留学は、想像していたものよりも何倍も何十倍も大きなものであり、私の人生の中で一生忘れることのできないものとなりました。

何もかもが刺激的だったカナダでの生活。異なる言語や文化、価値観の中で過ごした10ヶ月間で、英語力に自信がついたことはもちろん、自ら考え行動することができたお陰で、前よりも自立した自分になって帰ってこられたような気がします。この留学で得たものの全てが日本にいたままでは手に入れることのできないものでした。

“What are you waiting for?” 自分自身が変わらなければ何も変わりません。変わりたいと思った時に人生は大きく変わります。“Life is short” 人生はあっという間です。今やれること、挑戦してみたいことがある人は、自分の力を信じ、可能性を信じ、一步を踏み出してみてください。



卓球部での3年間

3年2組 藤浦 瞳



私は県北の登米市から電車とバスを使い通学しています。朝早く夜遅くが毎日のことで、疲れて部活を辞めたいと思ったことは何度もありました。1年生の時は活躍することができず、とても悔しい思いをしました。2年生では、チームのエースとして多くの試合に出させてもらいました。7月から8月にかけては、1人で千葉遠征、また県代表として上海遠征にも行ってきました。レベルの高い選手とたくさんの試合をして、とても良い経験になりました。新人戦は団体準優勝で東北選抜大会にも出場しました。結果は5位でしたが、チーム一丸となって戦うことができました。3年生では、地区大会ベスト4でした。6月に行われた県高校総体では、団体戦準優勝、また個人戦は第3位となり、全国大会に出場することになりました。

私は、聖ウルスラ学院英智卓球部に入ってチームワークの大切さを学びました。このように好成績を収めることができたのは、チームのメンバーが常にそばにいて、勝ちたいという思いをひとつにして頑張ってきたからだと思います。遠距離通学で大変な思いをしてきましたが、ウルスラ英智に入学して本当に良かったと思っています。チームワークの大切さを教えてくれた顧問の雄二先生、卓球部の皆さん、ありがとうございました。

私たちバスケットボール部は部員が2年生9人、1年生8人で活動しています。部員全員が個性的で、やる時はしっかり気持ちを切り替えられるメンバーが揃っています。私たちが現在体育館を使って練習をしています。しかし、3月11日の震災の影響で夏休みの体育館が使えず、講堂を利用して短時間の練習を集中して取り組んでいました。その結果、体育館が使えない中で行われた今年度の県高総体ではベスト8に入ることが出来ました。新人戦や来年の高総体でも、それ以上の結果が残せるように頑張りたいです。

新人戦や高総体の他にも、バスケ部は大会や長期休暇での合宿・遠征試合をすることが多く、試合では様々なタイプのチームと戦うことができるので、自分たちの弱点や現在の力を確かめることが出来ます。

震災があり厳しい条件の中で生活をしている人々もいる中、バスケットボールが出来ることに感謝の気持ちを忘れず、これからも一回一回の練習や試合を全力で取り組み、実戦で使えるような実のあるものにしていけるように頑張ります。

(部員・顧問一

同)



吹奏楽部は中学生4名、高校生83名の大会所属で毎日活動しています。今年は全日本吹奏楽コンクール宮城県大会で3年ぶりに第1位（海鋒賞）となり、東北大会に出場することになりました。宮城県ではこれまで海鋒賞を受賞した私立学校は本学院しかなく、しかも今回は2回目の受賞ということなので、東北大会では賞に恥じない素晴らしい演奏をしようと部員一同気持ちをこめて練習に励んでいます。

吹奏楽部の活動は主に春の定期演奏会、夏の吹奏楽コンクール、秋の演奏会、冬のアンサンブルコンテストとなっており、毎日とても慌しく過ぎていきます。この忙しい毎日の活動の中で、生徒たちは音楽作りを通して切磋琢磨し、ときには喧嘩をしたり、同じものを見て泣き・笑ったりして大きな人間成長を遂げています。これからも先輩から引き継いだ伝統をさらに発展させられるようみんなで頑張っていきたいと思っています。

(顧問 及川 博

暁)



(東北大会でも金賞を受賞し、全国大会出場を決めました。おめでとうございます。)

聖ウルスラ学院英智中学校・高等学校 書道部展の今年のテーマは「千代（せんだい）」です。仙台藩主伊達政宗公が仙台を開くおりに願いを込めて名付けた「千代」であり、私たちの住む「地」である「仙台」です。昨年12月にテーマを決め、震災後その思いはさらに強くなり取り組みました。

(部員・顧問一同)



会期：8月12日（金）～8月17日（水）
会場：藤崎本館7階 催事場



インターハイ出場おめでとう！

平成23年度全国高等学校総合体育大会

<宮城県大会結果>

ソフトテニス競技

◆女子個人
【ベスト8】
小岩 楓 (2年)
畠山 遥 (2年)

卓球競技

◆女子シングルス
【第3位】 藤浦 瞳 (3年)
【第5位】 松本 紗季 (1年)



バドミントン部

中学・高校でそれぞれ男女揃って
全国大会で結果を出すことができました。
たくさんのご声援、ありがとうございました。

平成23年度 全国高等学校体育大会 高松宮記念杯
第62回全国高等学校バドミントン選手権大会
＜平成23年8月15日～20日 青森県弘前市＞

女子

◆女子学校対抗ベスト8

〔主 将〕清水 恵(3年)
野村 有美(3年) 藤原沙也加(3年)
鳥居 彩乃(2年) 小池 紗葉(2年)
我妻美沙紀(2年) 重山 智佳(1年)
マネージャー / 後藤 彩樹(3年)

◆女子個人対抗ダブルス 第3位

清水 恵(3年) / 野村 有美(3年)
同出場
藤原沙也加(3年) / 小池 紗葉(2年)

◆女子個人対抗シングルス 第3位

鳥居 彩乃(2年)
同出場
重山 智佳(1年)

男子

◆男子学校対抗出場

〔主 将〕吉川正之慎(3年)
大森 太一(3年) 玉手 将弥(3年)
宮崎宗一郎(3年) 植松 健吾(3年)
小野寺祐仁(2年) 大宮 健(2年)
マネージャー / 浅原利希哉(1年)

◆個人対抗ダブルスベスト16

吉川正之慎(3年) / 大森 太一(3年)
同出場
玉手 将弥(3年) / 宮崎宗一郎(3年)

◆個人対抗シングルス出場

吉川正之慎(3年) ・ 植松 健吾(3年)



インターハイに出場して

高校女子 主将 清水 恵

先輩たちが卒業して私たちの代になりインターハイ2連覇目指し頑張ってきました。しかし今年のインターハイでは団体戦ベスト8、個人単複3位という結果でした。先輩たちが築きあげてきた伝統を引き継ぐことができず悔しさが残りましたが、全国優勝を目標に厳しい練習に耐え最後はチーム全員が全力で戦ったので悔いはありません。後輩たちに夢を受け継いでほしいと思います。最後になりますが、この度の震災で先生方をはじめ、保護者の皆様方、県協会や関係者、全国のバドミントン部員から多くのご声援ご支援をいただき、バドミントンを続けられたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

高校男子 主将 吉川 正之慎

今年のインターハイは2年連続2回目の出場でした。初の初戦突破はもちろんのこと、全国でベスト8以上の成績を残すことを目標に日々の練習に励んできました。団体個人とも初戦を勝ちましたが、全国のレベルの高さを感じることもできました。いつか後輩たちがその夢を成し遂げてくれることと信じています。男子の伝統はこれからですが、中学生も頑張っているのでもこれからも応援していきたいと思っています。最後になりますが、この度の震災で先生方をはじめ、保護者の皆様方、県協会や関係者、全国のバドミントン部員から多くのご声援ご支援をいただき、バドミントンを続けられたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成23年度
第41回全国中学校バドミントン大会
＜平成23年8月22日～25日 滋賀県大津市＞

男子

◆男子団体戦 準優勝

〔主 将〕玉手 勝輝(3年)
〔副主将〕菅原 栄史(3年)
高橋 歩夢(3年) 篠崎 孝浩(3年)
河原 大樹(3年) 野村 拓海(2年)
海老澤年幾(2年)

◆男子個人戦 ダブルス 優勝

菅原 栄史(3年) / 高橋 歩夢(3年)

◆男子個人戦 ダブルス 準優勝

篠崎 孝浩(3年) / 野村 拓海(2年)

◆男子個人戦 シングルス 準優勝

玉手 勝輝(3年)

女子

◆女子団体戦 第3位

〔主 将〕鈴木いよ乃(3年)
〔副主将〕高瀬妃奈子(3年)
甲斐妃美子(3年) 神 優衣(3年)
橋本 紗苗(3年) 高橋 英里(2年)
財間 七彩(2年)



全国大会に出場して

中学男子 主将 玉手 勝輝

今回の全国大会では、団体戦 準優勝、個人戦シングルス 準優勝、ダブルス 優勝・準優勝という良い結果を残すことができました。これは自分たちの力だけではなく、多くの方々の協力があったからだと思います。今後もさらに上を目指して頑張るので応援よろしくお願い致します。

中学女子 主将 鈴木いよ乃

今回の全国大会は、団体3位という悔しい結果でしたが、一人一人が自分の力を出し切った結果だったので良かったと思います。3月11日に東日本大震災が起り体育館が使用できなくなりましたが、その中でも練習に打ち込めるように練習場所を作ってくれた先生方、応援してくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。応援ありがとうございました。

同窓会だより

幼稚園

「6年生集まりの日」

卒業して6年生になった子どもたちが、2011年2月5日幼稚園に久しぶりに集まりました。今年は54名の卒園生が集まり、遠くは大阪・東京・横浜からも参加し、みんなで楽しい時間を過ごしました。

椅子の小ささにまず驚き、懐かしそうに園舎を見回ると、担任の先生と幼稚園時代の思い出話を花を咲かせました。卒園時に書いた文集『ひかりのこ』を見ると、小さい頃の自分の絵を見て恥ずかしがったり、将来の夢を思い出すと、「今も変わってない!」という子がいたり、話は尽きませんでした。

そして、「みんなに会えてよかった!」「また、会いたいね!!」と言いながら名残惜しそうに帰って行きました。今年は大地震があり、不安の中で中学生生活が始まりましたが、今頃は新しい事に挑戦しながら元気いっぱい学生生活を送っていることでしょう。

今年度は、2012年2月4日(土)に行われる予定です。大きく成長した6年生のみなさんに会えるのを楽しみにしています。

小・中学校

今年は未曾有の大震災に見舞われ、たくさんの方が被災しました。同窓会としても何か力になりたいと思い、在校生へ向けてという形ですが、同窓会の会費の一部を支援金として使わせていただきました。亡くなった方へのご冥福をお祈り申し上げます。そして、被災された方々に一日も早く平穏な日々が戻ることを願っております。

同窓会の活動として8月19日に初めての同窓会幹事会を予定しております。そこでは同窓会開催へ向けて今後の活動についての話し合いを行ないます。こんな世の中だからこそウスラ英智生の絆を再確認できる同窓会を提供できたらと思っています。

会長 白鳥 司

高等学校

この度の大震災で被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。11月にはこの震災により帰天されました「恩師と同窓生のための追悼ミサと偲ぶ会」を行なうことにいたしました。

母校の校舎復旧工事もほぼ完了し、後輩たちが少しずつ以前の生活を取り戻してきているようです。50回生までを含めた同窓会名簿の作成も進んでおります。

また、多くの同窓生から寄せられました義援金は、学院、在校生のために使わせていただきます。同窓会会員の親交と友情を深め、母校の発展を図るために、今後も活動してまいります。

会長 今野 麻里

卒業生からの メッセージ

高等学校同窓会 会長

今野 麻里



2011年3月11日、11時から約1時間私は、聖ウルスラ学院英智小・中学校同窓会入会式の席にいました。同窓会にとって入会式は新たな会員を招き入れる大事な行事です。その席で、高等学校同窓会入会式でもお話ししました「同窓会はいつも後輩の皆様へエールを送り続けています。」というメッセージを伝えたものでした。その僅か3時間も経たぬ時刻にあの大きな地震が襲ってきました。

ライフラインが停止し身動きのとれない日が続き、ようやく周りの様子が見え始めたころ、心に浮かぶのは、あの時後にした母校のことでした。一本杉キャンパスが緊急避難所となっていることを知り、おそらく学校は無事なのだろうと思えたことは、災いの中にあってもホッと胸をなでおろすことでありました。

出来ることは何かを考え、作成中の同窓会23年度の予算案をじっと見詰めました。伊藤校長先生に向けて電話のベルを鳴らしたのは、3月下旬だったと思います。一時も惜しんで動き回っていらした先生は、校舎の被害はあるものの、在校生は無事であったこと、生徒たちが避難所となった学舎で避難された方々のために懸命に動いていること、被災した在校生の数が把握出来つつあることをお話しくださいました。私はできるだけ早く在校生の被災状況を確認していただき、同窓会積立の奨学金を運用しての支援をしたい旨お願いしました。多忙を極める中、校長先生はその申し出を受け入れてくださいました。約2週間程度で現状が把握され、方針が決められたとの連絡をいただきました。私は入会式でお伝えしたことを実現できること、それを学校が受け入れてくださったことに心から感謝いたしました。

それは、学院に関わる多くの方々にも参加いただいた、緊急支援制度というものでした。緊急支援金は被災された在校生48人(5月現在)に5月中旬に届けられました。

また、同窓会からの優しいメッセージと温かい義援金も集まっております。同窓会にはこれからも、支援を続けてゆく所存です。

11月12日(土)には、この震災により天に召された「恩師と同窓生のための追悼ミサと偲ぶ会」を復旧工事が完了する予定の校地内聖堂にて行ないます。慰霊と感謝の祈りを共に捧げたいと思います。

Piano Violin



生徒募集中

どなたでも随時入室できます。

聖ウルスラ学院英智音楽教室

～豊かな心を育む音楽を～

聖ウルスラ学院英智音楽教室は140名の生徒と共に新年度を迎えることができました。日頃より多くの皆さまのご支援とご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

当教室は創設64年、聖アンジェラの精神に導かれ、生徒一人一人と音楽の楽しさ、美しさを学び豊かな心が育まれることを願いながら努力してまいりたいと思います。

名誉室長 Sr. 清水 道子

第64回

定期演奏会のお知らせ

と き／平成23年10月30日(日)
10:00～17:00

ところ／仙台市若林区文化センター ホール

入場無料

どうぞ、お問い合わせをお越しく下さい。



聖ウルスラ学院英智音楽教室 設立64周年によせて



聖ウルスラ学院英智音楽教室
名誉室長 Sr.清水 道子

音楽教室の設立のきっかけとなりましたのは、1947年に聖ウルスラ修道会に入会したのですが、それと同時に、20人ほどの生徒さんにピアノを教え始めたことでした。私がそもそも音楽に興味を持ちましたのは、西洋音楽がまだ身近になかった時代でした。幼少の頃、5、6歳でしたか、ご近所のピアノのある方のピアノの音を聴き、大変興味を持ちましたが、太平洋戦争等、時代の大きな変化の中でしたので、家族の協力をいただきながらピアノの勉強を続けたわけです。

音楽教室はいつも小学校と共にありましたので、その時々学校の出来事など、たとえば小学校の火災もあり、大変に思ったこともありました。けれども、これまで64年の間、教室を巣立っていかれた、たくさんの生徒さんの中には、専門の音楽の

道に行かれた方もいらっしゃいました。また、幼い頃この教室で学ばれた方が、音楽に触れ、美しいものへの心の育み、各々の人生の中で社会を明るくする一助になってくれれば大変嬉しく思います。

聖ウルスラ学院第一校歌を作曲いたしました、作詞者の方と、校歌に対する思いが一致しました。それは、子どもたちに未来への希望を託すことでした。美しいメロディーと共に、歌いやすいメロディーを意識して作曲いたしました。

音楽教育を行う中で、いつもカトリック精神に心に深く感じながら、また生徒一人一人の個性を大切にしながら、深い愛情をもって生徒と共に学んでまいりました。

取材協力：聖ウルスラ学院英智音楽教室 室長 松井 敏子先生

聖ウルスラ学院英智小・中学校 教育研究開発学校（教育課程特例校）

第7回 「英智公開研究会」 （第一次実施要項）

◎研究主題：言語技術がもたらす論理的思考力と表現力の育成

——目標分析に基づく発展的な学習過程の研究と評価——

◎日 時：平成23年12月3日（土） 8:30～16:00（受付8:00～）

◎会 場：聖ウルスラ学院英智小・中学校 一本杉キャンパス

◎主 催：聖ウルスラ学院英智小・中学校

◎後 援：宮城県・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会（予定）

◎参 加 費：一般/1,000円（資料代を含む） 学生/無料 <別途、お弁当・お茶 計1,000円も申し受けます>



当日のスケジュール

受 付	オープニング セレモニー	授業①	授業②	授業研究会	昼 食	研究報告	鼎 談	講 演	閉会の辞
8:00～ (光のプレゼンテーションホール)	8:30～8:50 (光のプレゼンテーションホール) 朗読発表/講師挨拶	9:00～9:45 (2階 普通教室)	9:55～10:45 (3階 普通教室)	10:55～12:15 (2階 普通教室)		13:00～13:15 (講堂)	13:20～14:30 (講堂)	14:35～15:55 (講堂)	15:55～16:00 (講堂)

(指導助言者) 文部科学省高等教育局主任視学官(科学技術・学術総括官) 常 盤 豊 氏
つくば言語技術教育研究所所長 三 森 ゆりか 氏
宮城教育大学副学長 見 上 幸 氏
兵庫教育大学大学院教授 加 藤 明 氏

宮城教育大学教授 松 岡 尚 敏 氏
上智大学外国語学部准教授 和 泉 伸 一 氏
前文部科学省中央教育審議会副会長 梶 田 叡 一 氏
環太平洋大学学長・本学院理事長

授業① 9:00～9:45		
教 科	学年・指導者	単 元
言語技術	S6年B組 猪股 愛	テキスト分析
国 語	S5年A組 渡邊 俊明	大造じいさんとガン
英 語	S6年A組 木村侑香子	物語の分析・朗読をしよう
社 会	F4年A組 佐々木彩香	日本の国土から見た私たちの生活と食料生産
数 学	S7年C組 大関 理沙	空間図形
理 科	F3年B組 佐藤 雄一	物の重さをくらべよう

授業② 9:55～10:45		
教 科	学年・指導者	単 元
言語技術	S7年Bグレード 渡部久美子	絵の分析
国 語	Type2・T8年1組 佐々ひとみ	平家物語
英 語	S6年B組 木村侑香子	話し合いをしよう
	Type1・T8年1組 狩野 愛	視点を変える
社 会	Type2・T8年2組 喜古 康	東南アジア
数 学	F4年B組 中村 明子	変わり方調べ
理 科	S7年A組 青木久里子	身のまわり物質

授業研究会 10:55～12:15		
(教科)	言語技術部会	三 森 ゆりか 氏
	国語部会	常 盤 豊 氏
	英語部会	和 泉 伸 一 氏
	社会部会	松 岡 尚 敏 氏
	算数・数学部会	加 藤 明 氏
	理科部会	見 上 幸 氏

研究報告 13:00～13:15
(研究と成果) 研究主任/聖ウルスラ学院英智小・中学校副校長 金澤 孝夫

鼎 談 13:20～14:30
(鼎談者) 兵庫教育大学大学院教授 加 藤 明 氏
つくば言語技術教育研究所所長 三 森 ゆりか 氏
前文部科学省中央教育審議会副会長 梶 田 叡 一 氏
環太平洋大学学長・本学院理事長

講 演 14:35～15:55
文部科学省高等教育局主任視学官(科学技術・学術総括官) 常 盤 豊 氏

閉会の辞(感謝の言葉) 15:55～16:00
聖ウルスラ学院英智小・中学校/高等学校校長 伊 藤 宣 子

平成24年度 園児・児童・生徒募集要項の概要

校 種	募集定員	出願日/出願期間		試験日	試験内容	合格発表	体験入園/オープンスクール等	
幼稚園	3年保育/男女 50名 2年保育/男女 30名	11月1日(火)		※詳しくは要項・願書をご覧ください 要項・願書配付期間……10月1日(土)～10月31日(月)			〈公開保育〉10月7日(金) 〈体験入園〉10月15日(土)	
小・中学校	小学校課程 新1年生 (F1年生)	前期	10月1日(土)～ 10月31日(月)	11月5日(土)	運動面・知能面・生活面の検査 面接(本人と保護者)	11月7日(月)	〈学校教育説明会〉 ① 9月3日(土) 14:00～ ② 10月8日(土) 14:00～ 一本杉キャンパスにて	
	後期	11月14日(月)～ 11月28日(月)	12月10日(土)		12月12日(月)			
	男女 60名	前期 推薦 特待生 一般	12月9日(金)～ 12月21日(水)	1月6日(金)	面接(本人と保護者) 学力検査(国語・算数) 面接(本人と保護者)	1月7日(土)	〈学校教育説明会〉 ① 9月3日(土) 14:00～ ② 10月8日(土) 14:00～ 一本杉キャンパスにて	
	中学校課程 新1年生 (S7年生)		後期 特待生 一般	1月5日(木)～ 1月11日(水)	1月12日(木)	面接(本人と保護者) 学力検査(国語・算数・社会・理科)		1月13日(金)
	男女 70名	公立中高一貫校を受験される方にお勧めの入試です					1月13日(金)	〈オープンスクール〉 10月15日(土) 9:30～ 一本杉キャンパスにて
	高等学校	特別志学コース ＜Type1＞ 男女 40名	奨学生推薦	1月5日(木)～ 1月11日(水)	1月12日(木)	作文・面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり	1月13日(金)	〈オープンスクール〉 10月15日(土) 13:30～ 一本杉キャンパスにて
			一般 (含 奨学生・専願)	1月5日(木)～ 1月24日(火)	2月3日(金)	学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	2月7日(火)	
		特別志学コース ＜Type2＞ 男女 60名	奨学生推薦	1月5日(木)～ 1月11日(水)	1月12日(木)	作文・面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり	1月13日(金)	
			一般 (含 奨学生・専願)	1月5日(木)～ 1月24日(火)	2月3日(金)	学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	2月7日(火)	
		尚志コース 女子 130名 男子 10名 ※男子:奨学生推薦のみ	奨学生推薦			面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり		
推薦			1月5日(木)～ 1月11日(水)	1月12日(木)	面接(本人のみの個人面接)	1月13日(金)		
AO (自己推薦)				作文 面接(本人のみの個人面接)				
	一般 (含 奨学生・専願)	1月5日(木)～ 1月24日(火)	2月3日(金)	学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	2月7日(火)			

幼稚園のスクールバス

＜主な運行路線＞

聖ウルスラ学院英智幼稚園

※平成23年度 9月1日現在

小・中学校/高等学校のスクールバス

遠方より通学する小・中・高校の児童・生徒の安全と便宜を図るため
各方面に朝と帰りにスクールバスを運行しています。

＜運行コース＞

- Aコース・鶴ヶ谷方面
- Bコース・沖野方面
- Cコース・宮町・幸町方面
- Dコース・大野田方面
- Eコース・名取・ゆりが丘方面
- Fコース・泉中央方面

※平成23年度 9月1日現在

* この運行コースは平成23年度のもので、
ルートや停車場も次年度以降は変更される場合があります。
* 各コースとも定員となった場合は、低学年優先となります。



学校法人 聖ウルスラ学院

聖ウルスラ学院英智

幼稚園	〒984-0047 仙台市若林区木ノ下1丁目25番25号 TEL.022-293-4024 FAX.022-293-4014
小・中学校(木ノ下キャンパス)	〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-6461(代) FAX.022-286-6431
小・中学校(一本杉キャンパス) 高等学校	〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-3557(代) FAX.022-286-7279
法人事務局	〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-5935 FAX.022-286-6334

<http://www.st-ursula.ac.jp/>

